

..... 編集後記

◆ 科学博物館の清川昌一さんから、表紙、グラフィック、本文のセットで原稿をいただきました。近年、我が国でも学生さんが海外へ出かけ、卒論や博士論文を書くというケースが増えて来ています。清川さんの、この西オーストラリアの研究もそのひとつです。彼がオーストラリアでコツコツ積み重ねた研究は、地球史の中での大転換期、太古代・原生代境界付近の地球変動記録の解説でした。表紙やグラフィックの写真も雄大で魅力的です。

◆ 悠久の大河、黄河の河口域の井戸を使って地下温度計測を行い、得られた地下温度プロファイルにもとづき地下水の流れについて考えてみました。内田洋平さんと田口雄作さんの報告です。地下水流動と地下の温度構造との関係を明らかにすることによって、地下温度を地下水の流れのトレーサーに使う試みを紹介していただきました。

◆ 服部 仁さんが続けて下さった兵庫県南部地震被害の連載記事に対して、地震地質部の栗田泰夫さんがコメントを寄せられました。そのコメントに対する服部さんの回答とあわせて本号でお届けいたします。学術雑誌ですとこのような討論が時に誌上を賑わせることもあります。地質ニュースでは、少なくとも私の記憶にはありません。今回、本誌の記事に対するコメントでしたので、学術誌の真似をして回答をお願いし、両者を併載することにいたしました。

◆ 住田達哉さんは昨年10月に地質調査所に入所されたフレッシュマンです。環境地質部環境地質研

究室に所属しています。今回の原稿では、高压下では水が珪酸塩の溶融温度を大きく下げるので、水が有るとマグマが出来やすくなるということを実験結果をもとに分かりやすく解説して下さいました。

◆ 須藤定久さんが50万分の1鉱物資源図「中部近畿」作成のために集められた東濃地方の陶磁器原料資源の資料を、二つの原稿ファイルにわけて記載して下さいました。まずはじめは、美濃焼を中心とする陶磁器産業の現況とその資源について、次に陶磁器原料の中でもとくに蛙目粘土と珪砂の産地として知られる岐阜県南部山岡町原地区の近況です。いずれの地域でも原料としての粘土資源の枯渇が憂慮されています。著者の須藤さんを執筆に突き動かしているのは、まさにこのような状況です。

◆ 冷房の効いたビルから戸外へ出た時に身を包む熱気。この安心感に似た心地よさを感じた時に、ああやっぱり自分は夏の生まれなんだと思ったのですが、一方、これを書きながら、暖房の効いた建物から外へ出た時に襟元から入る小雪、このひんやりした爽やかさも好きだったなと思い出しました。単にこれは、長時間続いたある状態から、反対の状態に移った、その時の心地よさというだけなのかも知れません。編集後記に季節感を入れたくて、今日ふっと、自分が夏生まれであることから感じたままを書いてみたのですが、「湯浅、お互いに単純でよかったな」と昔、友から同意を求められたことがあったのを思い出しました。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係（河村幸男・渡辺光次）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-61-3520

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第553号	2000年	9月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
2000年9月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2000 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してありま
す。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ